

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201702
法人名	特定非営利活動法人 おりおせ福祉の森
事業所名	グループホーム あっとホーム黒髪
所在地	〒857-1152 長崎県佐世保市黒髪町6515-27 (電話)0956-32-5888

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年1月29日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋・木造 造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	74歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院・加瀬内科胃腸科クリニック・沖永歯科医院・山本歯科医院
---------	------------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長が民生委員時代に感じた福祉への熱き思いが若い管理者にも受け継がれており、介護を必要としている人が当たり前前に支援され、生きがいを持って地域で生活できるネットワーク作りを地道に取り組みされている。その一端をグループホームで担われており、民生委員や地域包括支援センターとの情報の連携や介護の駆け込み寺的受け入れで、福祉に貢献されている。又、入居者も職員も自分の得意分野や趣味をホーム生活の中に活かされており、お互いが足りないところを補い、共に汗を流し、悲しみは分け合いながら喜び楽しみに変えてゆく苦楽を共に感じながら共同生活を営まれている家庭的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	栄養摂取や水分補給の支援では、水分摂取量と排便形状に着目された記録の取り組みをされている。役割、楽しみごと、気晴らしの支援では、個別のレクリエーションにも幅を持たせ、山登りや生け花、おしゃべりなどにも目を向けた支援をされている
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が項目ごとに説明しながら、全職員で評価の取り組みをされている。全体的な気付きとして、普段のケアや心配りの大切さを実感されている。又、専門的な介護の一端として記録のレベルアップも範疇に収められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の開催をされているが、議題に困られていることも正直に話された。前年度は、場所の確保にも困っていたが、入居者の協力で居室を会議場所として提供いただくと共に本人も会議に参加いただける前進した展開で、ホームの行事報告や地域行事への参加誘導など双方向の話し合いがされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員に直接伝えられることが多く、理解した範囲で改善につなげられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	理事長の民生委員時代の人脈・経験が地域活動や交流に反映されている。又、地域の方を対象に介護保険や悪徳商法などについて判りやすく手作り演劇で説明されるなどの取り組みもされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表が民生委員の経験を通して学んだことを根底に介護する、されるに係わらず【家庭的】をキーワードに、【地域でその人らしく生活できる環境の提供】を目指されており、法人が目指す福祉職の登竜門としてグループホームを位置づけされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昨年の『言葉かけを大事にしよう』から大きく前進して、今年は『専門的な介護、レクレーション』を目標にプロ意識を持ったサービスの提供を目指されている。これまでは、ゼロからの職員を育てることに注力されていたが、今年2人の専門知識を持った職員が入られたことを契機に職員のスキルアップを目指したチャレンジの年と位置づけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理事長の民生委員時代の人脈、経験が地域活動や交流に反映されている。又、地域の方を対象に介護保険や悪徳商法等について判りやすく手作り演劇で説明されるなどの取り組みもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が項目ごとに説明しながら、全職員で自己評価の取り組みをされている。全体的な気づきとして普段のケアや心配りの大切さを実感されている。又、専門的な介護の一端として記録のレベルアップも範疇に収められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をされているが、議題に困られていることも話された。前年度は場所の確保にも困られていたが、入居者の協力で、居室を会議場所として提供いただくと共に本人も会議に参加いただける前進した展開で、ホームの行事報告や地域行事への参加誘導など双方向の話し合いがされている。		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初から介護拒否に近い困窮者等を受け入れられており、現在でも介護の駆け込み寺的存在で市との連携を保持されている。又、配食サービスを通じた利用者の緊急通報などで地域包括支援センターなどとの連携もスムーズに取れる関係構築ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者担当制を取り入れられており、担当職員が出勤している場合は1日集中して担当できるような環境づくりをされており、職員にも責任感が芽生えている。家族への近況報告なども担当職員が担当するので、気づきや取り組み姿勢が深くなり職員の質の向上にもつながっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に直接伝えられることが多く、理解した範囲で改善につなげられている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の運営方針で、グループホームで介護職員を育成し関連事業所へ配属されている。育成機関は個人差もあるが概ね2ヵ年で、ホーム職員と入居者の関係やバランスなど現場を第一に考慮した異動を心がけられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修受講は勿論のこと、法人内の事業所体験を通じた実務研修で職員の育成も図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	かつて、他の事業所を通して実務体験研修を実行されたことがあったが、職員のレベルと経験がその域に達していない苦い経験を持たれている。過去の経験を踏まえて、現在、他のグループホームと相互体験学習の実施を検討中である。		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>独居等で本人に入居希望がある場合は、職員が頻繁に居宅等を訪問しながらアセスメントを取り、本人のホーム見学時の様子なども含めてホーム生活環境に適しているかを見極めをされている。家族が連れて来られる場合は、体験入居を取り入れられている。どちらの場合でも入居後は、担当職員制で1人の職員が主になった支援と固定観念にとられない声かけなどで本人像を探り、場の雰囲気に馴染めるよう支援されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>【笑ってもらうことが一番】と、ホーム生活を楽しく笑顔で過ごしてもらえる環境づくりを心がけられ、固定観念にとられない入居者との関わりも試行錯誤しながら、そこから学ぶことを大事にされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>【できることは本人にしてもらいたい】介護指針を持たれており、入居者とのコミュニケーションやかかわりの中でも思いや意向を把握できるよう努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の担当職員に介護計画案を立ててもらい、会議を通して他の職員の意見なども反映させながらケアマネジャーによって本人・家族の意見も取り入れた介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>新たに病院勤務経験者の計画作成担当職員の就業に伴い、介護計画が日々の記録からも反映される必要性を感じられ、食事と排泄の関連性を重視した書式に見直しをされたり、現状把握につながるようその都度アセスメントの取り直しをされたり試行錯誤しながら、【如何にしたら入居者一人ひとりの現状に即した介護計画の見直し・作成につながるか】、日々のケース記録に着目し検討されている。</p>	○	<p>従来の生活記録に必要性を感じられているキーワードの【日々の記録】、【介護計画】、【現状】を取り入れ、一目でこれらを把握できるよう、入居者の様子や反応、職員への対応、評価など介護計画を意識した日々の記録様式を全職員で検討されることが望まれる。</p>

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性として内部には、遠方の医療受診の同行支援をされたり、家族等の宿泊支援や入居者の特別な場所・行事への同行支援もされている。外部に向けては、法人グループが運営する配食サービス事業の配達をホームの所在地域を主に受け持たれ、管理者とケアマネジャーがその業務を担当し、安否確認や会話を通した触れ合いなど物心に響くプロの観察で独居高齢者の灯火となり、民生委員や地域包括支援センターと連携して地域高齢者の安心提供に努められている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のこれまでのかかりつけ医の継続受診を支援されており、協力医療機関や状態に応じた医療機関等との医療連携に付随した取り組みとして、紹介状に健康管理表や薬の説明書を添えた情報提供で適切な医療受診を支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期医療の段階の取り組みとして、可能な限り家族と職員と一緒に医師の話や話を聞くなど、方針を共有しながらの支援体制で臨まれている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの経歴、社会性、思いを大事に支援されており、タイミングや呼吸を合わせた言葉かけで入居者のプライドを守られている。又、職員の言葉にプラス言葉が多用されている。記録等の取り扱いに関する決まりごとでも作られており、特定の場所で保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問した日の午後、洗面所で髭をそって身だしなみを整えられている入居者に一礼すると、【こんにちは】と爽やかな挨拶を返された。		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回、炊事専門の職員が休みの時、入居者と職員と一緒に献立を考えて調理されている。食事の時は、入居者と職員が食卓を囲み話題豊かに会話を楽しまれ、食後もお茶の催促や隣の人への継ぎ足しなど和気あいあいとした食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	柚子風呂や季節のシールを貼るなど浴室環境に変化を付けた入浴支援をされている。現在、入浴拒否のある方は足浴からモードスイッチを入れて入浴支援へつなげられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブを兼ねて足湯に出かけられたり、畑仕事で作物を育てたり、職員の方と漢字や英単語の書き取り試験をして採点されるなど、入居者の社会性や経歴、趣味などを活かした支援で入居者の自信や満足、気晴らしなど精神面・気力面での活性も図られている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1階のホーム周りにはプランターなどで花を育てられており、掃き出し窓から気軽に外庭へ出ることができ、ホーム内においても外気に触れる機会が用意されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、殆どの入居者は2階のリビングで過ごされることが多く、職員も外出の傾向ある入居者の把握やいつもと違う様子の入居者には注意を払い、居場所の確認などを怠らないように努められている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各階の廊下の目に付くところにわかりやすく表示された避難経路図が掲示されている。ホームとしては、今年2名の新任職員を採用したこともあり、周到な災害対策訓練の必要性を感じられている。	○	訓練以外にも周到な災害対策として行政が作成しているガイドラインに沿ったホーム独自の自然災害も含めた災害対策手順書並びに関連機関との連絡体制一覧表、備蓄などライフラインにつながる取り決めが期待される。

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	このところ、水分摂取量と排便形状に注目した記録を心がけられており、水分摂取量に関しては毎回の飲水量も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの入居者が起きている時間を過ごされるリビングの窓越しには、地域住民の往来の様子や農作物の生育風景で季節感を味わうことができ、対面式の台所からは調理音や煮炊きの匂い、入居者と職員の会話や笑い声が共用空間を温かく包み、人の気配を感じながらソファで日向ぼっこできる居心地のよい環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の配置や装飾などから本人の現在の心身の状態や趣味、好みなどを窺い知ることができ、本人の安心できる場所・環境づくりに努められている。		